

題名 広島平和記念式典派遣事業に参加して考えること。



鹿沼市立東中学校 (氏名) 片倉 朱里

原爆ドームを見たとき、私は全身の力が抜けました。

まるでその空間のみ時間が止まっているように感じました。思っていた以上に迫力があり、大きな建物を一瞬にして崩した原爆の恐ろしさを体のすみまで染み込むかのように感じました。祈念式では、復興した広島を街、緑、花を目で見て、さらに原爆死没者名簿奉納では「まだこんなに多くの方が亡くなっているんだ。まだ見つからない人がいるんだ」と焦りのようなものがありました。夜に行ったとうろう流しも、一人ひとりの祈りを乗せて、川を流れていく景色は鳥肌が立ちました。これからの広島をさらなる発展ともう二度と核兵器のない世界になることを心から願っています。

題名 ロシアのウクライナ侵攻に対して考えること。

鹿沼市立東中学校 (氏名) 片倉 朱里

私は、とくに関係のない平和の日々を過ごしていた市民が最も辛いのではないかと考えています。ウクライナのみでなく、ロシアの方々も同じで、経済ブロックなどで多くの制限がかけられている、自由に生活できない、情報を正しく得ることができないなど、影響が大きすぎると思います。今は武器だけで争う時代ではないと感じます。情報戦になり、メディアの伝え方により、印象が決まってしまう。ドローンなどの便利なものまでも使用する無機質ともいえる殺人。私は平和な日本に生まれ、戦争を経験したことはありません。そんな私たちに必要なのは、他人事と思うことなく、自分で多くの情報を正しく判断し流されないことだと考えています。

題名 今日ある日本の平和について考えること。

鹿沼市立東中学校 (氏名) 片倉 朱里

「平和主義」日本が大切にしている1つですが、私は、絶対にこの考えを変えてはいけないと思います。当たり前の日々が一瞬で変わってしまう。私たちが今、将来に希望をもち、夢を追っている。普通ではないのだなと広島へ行き、改めて感じることができました。平和は1人1人の強い意識と、忘れてはならない過去で成り立つと考えています。ですが、日本だけでは全く意味がありません。世界に広めなければなりません。唯一の被爆国として戦争の恐ろしさを語り続けることが必要だと考えます。ますます、科学技術が発達し、人を無差別に一瞬で傷つけることになるのならば、未来の世界の平和のために止めるべきです。

題名 あなたにとって「平和な社会」とは何か、「平和な社会」を実現するために必要なこと。

鹿沼市立東中学校 (氏名) 片倉 朱里

私にとって「平和な社会」とは、誰もが安心して、笑って暮らせる社会です。戦争だけでなく、SNSなどの書き込み、学校や職場などでのいじめなども含まれると私は考えています。「外に出たくない」「何も起きないでほしい」という思いをすることなく、安心した生活ができる。笑顔であふれる日々を過ごせることが平和なのではないかと思っています。そんな社会を実現するためには、1人1人が意識改革をし、周りの誰かに伝えることが必要なのではないでしょうか。少しずつ伝えていくことができれば、いつか全世界に広がるでしょう。そう私は思っています。国民性や同調圧力はよい方向に使うことができれば大きな力を発揮できると信じています。自分から変わる。根本的な解決ができていくか定かではありませんが、今の私たちには必要だと考えます。